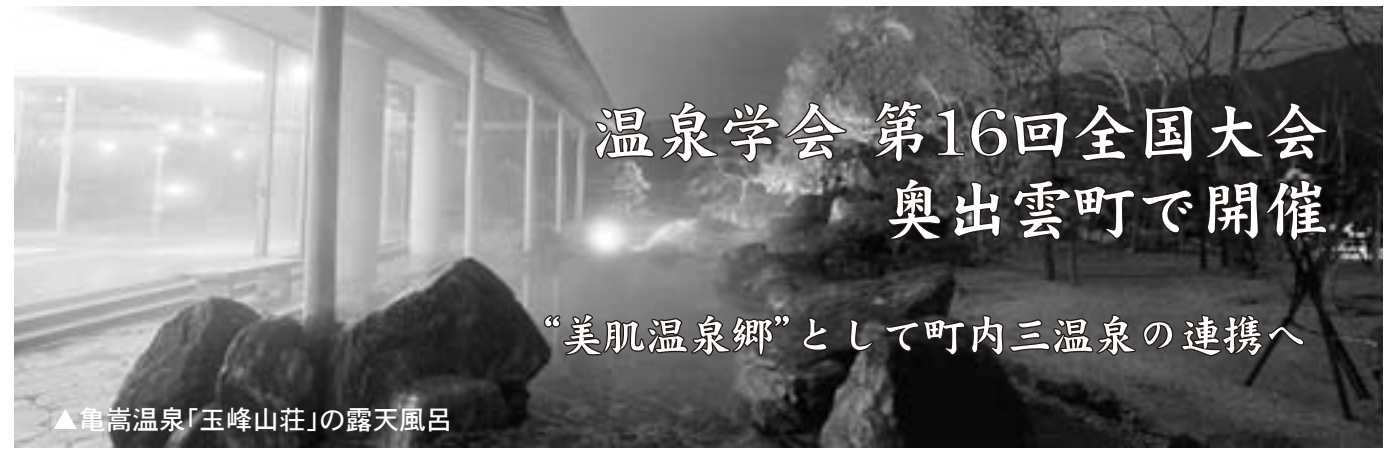


温泉学会 第16回全国大会 奥出雲町で開催

「美肌温泉郷」として町内三温泉の連携へ



▲亀高温泉「玉峰山荘」の露天風呂

温泉についての総合的な調査研究を行う「温泉学会」(会長・竹下賢関西大学教授)の第十六回全国大会が、三月五日と六日の二日間、奥出雲町で開催されました。

大会は、四月末の佐白温泉(仮称。佐白地区交流拠点施設)のオープンを前に、町内の温泉施設の連携と一体的なPRを図るとともに、温泉活用への機運を高めようと、町が開催を誘致。「温泉と健康・長寿」をテーマに基調講演やシンポジウムなどが行われ、県内外から約二百人が参加しました。

開会にあたり温泉学会の竹下会長は「歴史・神話と縁の深い奥出雲で、熱気ある有意義な大会としたい」とあいさつ。さらに井上町長からは「大会を通じて、地域振興における温泉活用の新たな機運を盛り上げたい」と述べ、大会開催を歓迎しました。

基調講演

◆昭和大学医学部
堀 泰典教授

カルチャープラザ仁多であった初日には、昭和大学医学部の堀泰典教授による基調講演が行われました。

演が行われました。

堀教授は、自身が博士号を持つ、医学・薬学・歯学の幅広い見地から温泉の効果について講演。「温泉には、精神的リラクゼーション効果、皮膚からのミネラル摂取効果などがある」とした上で、「泉質から見て、奥出雲の温泉は疲労回復や血液の正常化への有効性が高い」と評価しました。



▲温泉の効果について講演する堀教授

開催地報告

「奥出雲美肌温泉郷」と地域振興

開催地報告として井上町長から、佐白、亀高、斐乃上の三温泉について、数値分析結果を交えながら、紹介が行われました。その中で、「温泉を加温する木質チップボイラの導入、アクセス道路改良

の完成など、様々な環境を整え、三温泉を主軸に『奥出雲美肌温泉郷』として県内外にPRを進めて、住民と一体となつて地域振興につなげたい」と今後の展望を述べました。

シンポジウム

「天然の恵みを生かしたい」

シンポジウムでは、温泉学会理事の松田十泊さんをコーディネーターに、堀泰典教授、中医学医師の藤田康介さん、温泉学会副会長の大川哲次さん、多根自然博物館副理事長の宇田川和義さんをパネリストに迎え、それぞれの温泉にまつわる経験談や、そこから見えてくる温泉の効用について議論が展開されました。議論の中で「温泉には、療養、保養、休養の三大効果がある。日本では療養としての認知が低い」としながら、「奥出雲の温泉のようなアルカリ泉質は、美肌効果、殺菌効果が高い。その効果は、まさに天然の恵み。生活の中で活用されてきたことで実証されている」として温泉の効用や様々な可能性に言及しました。

二日目には、会場を玉峰山荘に移し、「地熱発電から温泉をどう守るか」をテーマにワークショップが開かれ、様々な事例をもとに議論を行いました。



▲シンポジウムの様子

ました。

仁多米ブランド化十周年

第六回仁多米振興大会開催

「原点回歸 環境と調和したおいしい米づくり」をテーマに、第六回仁多米振興大会・仁多米ブランド化十周年記念大会が二月十二日、カルチャープラザ仁多で開催されました。

仁多米振興大会は、平成十四年から二年に一度、仁多米のブランド化を図るうえで、安全安心なおいしい米を生産できるように、生産者の意識向上を目的に、町とJAが共催しており、今回は、溝口善兵衛島根県知事や米・食味鑑定士協会の鈴木秀之会長をはじめとした多くの来賓、町内の米生産者や関係者など約三百人が出席しました。

大会で、井上町長は「仁多米のブランド化を進める中で、一般消費者をはじめ、都市部においても高い評価を得るに至った。これまで築き上げた仁多米への信頼を失わないよう、生産者と関係機関が一体となり、安全安心な米づくりを進めなければならない」と



▲大会であいさつする井上町長

決意を述べました。

大会では、平成二十三年度奥出雲町良質米品評会と仁多

米ブランド特別賞受賞者の表彰が行われたほか、米・食味鑑定士協会名稲会会員で、上和田有機米生産組合の遠藤五一さんによる講演が行われました。

また、第二部「仁多米ブランド化十周年記念大会」では、仁多米ブランド確立に寄与したとして、上阿井の「一味同心塾」の中村成子館長に島根県知事感謝状が、販路拡大等に功績があった十三の個人・団体に奥出雲町長感謝状が贈られました。

出席者は、大会を通じて、安全安心な米づくりへの意識と、仁多米ブランドを守っていく決意を新たにしています。

◆平成23年度 奥出雲町良質米品評会表彰

うるち米の部 (出点数102点)

	受賞者	地区
最優秀賞	景山 和広	高尾
優秀賞	農事組合法人中丁	大呂
	大島 芳穂	大馬木
	部田 好美	八川

もち米の部 (出点数22点)

	受賞者	地区
最優秀賞	農事組合法人中丁	大呂
優秀賞	渡部 雅一	三所谷
	石原 吉徳	大

酒米の部 (出点数22点)

	受賞者	地区
最優秀賞	松崎 廣	下横田
優秀賞	影山 豊幸	上阿井
	小早川 勇	大馬木

◆仁多米ブランド特別賞表彰

	受賞者	地区
最優秀賞	農事組合法人がわにし	下横田
優秀賞	渡部 幹夫	上阿井

▼小濱あかりさんのデザイン



島根デザイン専門学校生が 路線バスをデザイン



▲梅美由紀さんのデザイン



▲菅田かおりさんのデザイン

町内を走る路線バスに、島根デザイン専門学校生のデザインを施した新車両三台が整備され、二月二十九日、デザインを考案した学生をはじめ関係者約三十人が出席し、奥出雲交通(株)で納車式が行われました。

今回整備された車両は大型一台、中型二台。大型バスには、ビジュアルデザイン科・小濱あかりさん(二年)のデザイン「そろばん」が、中型バスには、もみじとかたくりをイメージした、菅田かおりさん(一年)、梅美由紀さん(一年)それぞれのデザインが施されています。

大型バスに採用された小濱さんのデザインは、奥出雲町の完成など、様々な環境を整え、三温泉を主軸に『奥出雲美肌温泉郷』として県内外にPRを進めて、住民と一体となつて地域振興につなげたい」と今後の展望を述べました。

の町章からイメージを受けたという緑色の円形と、オレンジ、赤、黄色、緑、水色のそろばんの珠がバランス良く描かれていて、ポップで可愛らしい印象です。

小濱さんは「奥出雲の特産として、そろばんをもっとアピールしようと、そろばんと町章をイメージしてデザインした。自分のデザインがバスに施され、地域の皆さんに見てもらえることがうれしい」と話されました。

新しい三台のバスは、そのデザインとともに町民や利用者にとっても、バスの利用促進につながることを期待されます。